

## 自己紹介

### Mary-Grace Browning

County Upper School  
Edmunds, U.K.



学習者年齢： 16～17才  
日本語レベル： 初級  
文化面の目的： 礼儀作法やお見合いの意味について理解する  
学習する日本語： 自己紹介とお見合いに関連する表現

#### 学習目標

お見合いのロールプレイを通じて、自己紹介ができるようにする。自己紹介は、日本人に会ったときの会話のきっかけとなり、実践的でもある。お見合いやデートの話などは10代の若者が好むテーマであり、生徒は身近な話題の中から日本文化に対する関心を深めていく。自己紹介に伴う礼儀作法やお見合いの意味について考え、日英間の比較を行うこともできる。

#### 授業の進め方

##### < 事前学習 >

教科書 Japanese for Busy People の Lesson 1 を使って、自己紹介の時に使う表現練習を行う。

##### < 用意する物 >

- ・ビデオ Nihongo: Japanese for Busy People
- ・2×1m以上の大きさの茶色の紙
- ・8m以上の長さの黒いテープ
- ・コーヒーテーブル
- ・座布団または大きめのクッション
- ・生徒がつけるネームカード
- ・小道具の用意に関する指示書

##### < 進行方法 >

1. 何の説明も与えずに全員でビデオのお見合いの場面を見る。

2. ビデオから読みとった自分たちの文化との相違点、共通点を部屋・人・状況に分けてリストアップする。
3. お見合いについて教師が説明する。
4. 茶色の大判の紙と黒いテープを使って、模擬畳を二枚作る。低いコーヒーテーブルとクッション5つを用意し、お見合いの席を作る。
5. 5人ずつ4グループに分かれて、自己紹介をしたり、各人がお見合いの席でどのような役目を果たしているのかについて述べ合う。靴を脱いで座布団に座ることも習う。全体として、なるべく生徒が自由に演じられるように工夫する。

#### 生徒の意見・反応

(「 」内は生徒の言葉)

- ・「畳のサイズ、座布団の使い方、座っているときのお辞儀の仕方がわかった」
- ・「自己紹介をどのようにすればよいかわかった」
- ・「男性よりも女性のほうが伝統的な行儀作法で振舞う部分が多いことを知った」
- ・「男性よりも女性のほうが、着物を着る機会が多いことがわかった」
- ・「ビデオを見るのが面白かった」
- ・「英語でのディスカッションが面白かった」
- ・「日本人の文通相手から、お見合

いに対する考えを聞くのが面白かった」  
・「習っている言葉が、教科書の中だけではなく、実際の場面に使われていることがわかった」

#### 外国語学習と文化理解

私が所属する学校では、外国語教育の前提として、文法や発音だけでなく、その言語の文化的背景について学ぶことを重要視している。ドイツ語、フランス語の生徒ほどには、学習言語の文化に触れる機会が多くないものの、日本語クラスでも、日本人をゲストとして招いたり、16才の生徒には3週間日本に滞在する機会を与えるなど、生徒が現代の日本文化や社会を知る機会を作るように心掛けている。文化的要素は学習言語を生きたものにし、日本人と実際に接触する際に役立つからである。

取り上げるべきテーマは、お辞儀、気候、歴史、家族、人間関係、買い物、芸術、交通、教育、食べ物、年中行事など多様であり、1年間ですべてを網羅するのは難しいが、生徒の年齢や学習段階に応じて文化的要素を上手に取り入れていく必要がある。取り上げる内容が難しすぎて生徒たちの正しい理解を妨げることもないよう心掛けることも必要である。